

(財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団記念式典  
白川郷・五箇山三村交流会



2007年12月9日に行われた合掌財団10周年記念式典

白川郷の合掌造り



第10号  
平成20年3月31日

発行 (財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団  
岐阜県大野郡白川村荻町  
2495番地の3

本年度当財団は10周年となり、平成19年12月9日に10周年式典並びに「守る会」と共同で開催した3村交流会をお陰様をもって無事終了することができました。式典当日の運営はもとより会場の設営準備から後片づけ至るまでお手伝いいただき、関係者や地区住民のご協力に深謝する次第であります。財団設立と同時に管理運営をはじめ「せせらぎ公園駐車場」は19年度乗用車入り込み過去最高の八万台を記録しました。大型バスについては例年並みではあるものの年間を通じての入り込みを続けてい

節目を迎えて

(財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団  
事務局長 飯波直文

ます。白川郷周辺の道路交通網の発達により、「なかなか行くことのできない白川郷」から「いつでもいける白川郷」に変化しているのではないかと思います。そしていよいよ七月に東海北陸自動車道の全線開通が控えており、従来の北陸方面からの流入に加えて関東・東海方面からの東海北陸自動車道利用による流入の増が予想されます。観光繁盛期には白川郷ICからの渋滞が生じると思われますが、どれくらいの日数・規模であるかは想像が付きません。また逆に白川村来訪を目的としない通過交通車両は東海北陸自動車道により通過するため、通常の交流車両が少なくなるとい見方もできようと思われるます。白川郷IC開通効果によりどのような交通変化が生じるかは開通してみないとわからないものの、新交通システムの内容も全線開通により生じるインパクトに対応しながら改良を加える必要が出てくると思われま

す。財団としては全線開通後の新交通システムの検証を行ないつつ地域住民と共にその充実と普及を図っていきたいと考えております。

白川村教育委員会によって伝建地区保存計画の見直しを目的とした「保存対策協議会」が立ち上げられ建造物調査部会・環境物件調査部会・社会調査部会の3部会に分かれて保存計画見直しのための実地調査が開始されており、当財団は昨年度に引き続きこの見直し調査に協力を行うと共に、当財団の行っている修理事業・修景事業の助成率や助成対象の見直し検討も今年度から開始する予定であります。

荻町の世界遺産地区は、「保存」「住民生活」「観光振興」の3つが絡み合っており、このバランスをうまく取って行くことが永く集落を保存することにつながっていくと思っております。日々変化する周りの環境を見定めつつ次代へ受け渡して行くため当財団は荻町地区のバックアップをしていきたいと思

# 10周年記念事業

## 記念式典

今年で合掌財団も設立10年を迎えました。合掌財団会報であるこの「白川郷の合掌造り」も第10号です。10年目の今年、荻町が世界遺産に登録された12月9日という記念すべき日に合掌財団設立10周年記念式典を荻町公民館にて開催いたしました。また、毎年行われている荻町・菅沼・相倉と世界遺産に登録されている三つの集落の「三村交流会」が今年も荻町会場の年であったため式典後、記念講演を挟んで開催されました。



記念式典の様子

式典は文化庁文化財部建造物担当 荻谷参事官や岐阜県丸山総合企画部長、小坂村議会議長、川田荻町区長を迎え10年の節目に対するご祝辞をいただきました。また式典を迎えるにあたり作成しました10周年記念誌で10年間の活動を振り返り、最後に荻谷参事官から「世界遺産を取り巻く状況」と題しましてご講演をいただきました。お話では世界遺産を取り巻く世界と国内の最近の動向と伝統的建造物群保存地区の最近の状況、文化庁の行う文化財施策についてお話をいただきました。ここではその中から世界遺産に関わる内容についてお伝えしたいと思います。

### 世界遺産を取り巻く状況

荻谷 勇雅 参事官

この白川郷が富山県の五箇山集落と共に世界遺産に登録されましたの

は平成7年の12月9日です。それから12年前になります。私が文化庁の伝建担当になったのが平成7年の4月で、実はそれまで約20年、京都市で伝建や景観行政をやっていました。伝建担当になったばかりの私にとっても白川郷・五箇山が世界遺産に登録されたということは、伝建地区が世界遺産になるということで画期的なことと思いい、心に残る出来事でありました。

現在、白川郷の保存に関わって様々な課題があると思っております。それは皆さん何度も議論されていると思いますが、保存修理の問題、観光の問題、それに関わって交通の問題、後継者の問題、本当に様々な問題が集中的に出てきているような感じがいたします。保存の成果が出ている一方では、課題もかなり明らかになっており、これらの解決を目指して保存財団もがんばってこられているわけです。

ここで、保存財団にあえて、さらなる期待を述べるとすれば、今言いましたような様々な課題をうまく解

### 我が国の暫定一覧表(表1)

#### 文化遺産

- ◇古都鎌倉の寺院・神社ほか(神奈川県)
- ◇彦根城(滋賀県)
- ◇平泉・浄土思想を基調とする文化的景観(岩手県)
- ◇富岡製糸場と絹産業遺産群(群馬県)
- ◇富士山(静岡県・山梨県)
- ◇飛鳥・藤原の宮都とその関連遺産群(奈良県)
- ◇長崎の教会群とキリスト教関連遺産群(長崎県)
- ◇国立西洋美術館本館(東京都)

#### 自然遺産

- 小笠原諸島(東京都)

決するためのシンクタンクと言いましようか、内外の知恵や経験をさらしに集めて、それを村に展開していく。頭脳中枢としての機能も期待したい。なかなか難しいことではありますが、財団の今後のめざすべき一つの方向ではないかと思っております。

参考になるかどうか分かりませんが、私が平成7年まで在職しておりました京都市には「京都市景観まちづくりセンター」というものがあります。私の在職時に京都で様々な景観問題が発生し、これを解決する際に市民と行政とが対立するようなところがあまして、うまくお互いの知恵や経験が結ばれないということがありました。そこで、第三者的な機関を作って、そこで何かうまく知

恵を集約する方法はないかと検討しました。その時、実は京都市は50億円ぐらいの景観基金を持っていて、その一部を使って景観施策を拡大しつつあったのですが、私が京都市を離れてからまもなく、そのお金も活用して、「京都市景観まちづくりセンター」が財団法人として設立されました。

京都市の景観まちづくりセンターはこちらの保存財団とよく似た、様々な活動をしています。市民向けのシンポジウムや講習会、研修会、それも様々な人をいろいろいるところから呼んできて知識や経験を語ってもらい、自由に質疑応答をするといったプログラムを数多く開催しています。各プログラムは年に5回とか10回やっています。それからデザインの設計競技や論文募集をするなど、さらにこちらの保存財団でもやられておりますが、様々な調査研究の受託や、町家保存ファンドを設けて、町家の保存に補助金を出すということも行っております。このような市民と行政とを繋ぎ、緩やかな知恵を生み出す、あるいは間を繋ぐ潤滑油となるような活動の可能性は地域で結構あると思います。それは、場合によってはNPOであることもあるでしょう。

白川村は、伝建群の保存について大きな成果を挙げていますが、重荷も背負っています。その解決に財団が活動を更に一歩進めていただけると大変ありがたいと思っております。

### 世界遺産とは

文化庁では世界文化遺産の登録について作業を行っています。文化庁の中では文化財部の記念物課と参事官（建造物担当）というところでやっております。事務的な中心は記念物課ですが、建造物に関しては参事官室も関わっております。

世界遺産条約というのは文化遺産・自然遺産等について国際的な協力・援助の体制を確立することを目的とする条約ですが、2007年7月現在



文化庁荻谷参事官

在では184カ国が締約国となっております。1975年に遺産条約が発効しましたが、我が国は1992年に批准いたしました。世界遺産は文化遺産と自然遺産、複合遺産をあわせて7月現在、全世界で851件と非常に増えてきています。その内、文化遺産が660件、自然遺産が166件、文化と自然の複合遺産が25件ということで、圧倒的に文化遺産が多いわけです。日本では14件が登録されており、文化遺産11件、自然遺産3件です。

### 我が国の暫定一覧表

世界遺産に登録するためには、各締約国から暫定リストを世界遺産委員会に提出することを求められますが、今日現在ではこれだけのもの（表1）を暫定リスト一覧表にあげています。この中で平泉の浄土思想を基調とする文化的景観については2006年の12月に推薦書を提出しており、来年審査にかかるといふ状況です。また、この7月に鳥根県の石見銀山が世界文化遺産として登録されたことは記憶に新しいと思います。文化庁では昨年から都道府県を中心として暫定リストに挙げるべき文化遺産について提案を求めています。昨年は24件の提案がありました。そ

の中から4件、暫定リストに挙げるべき物件が選ばれました。

- ・富岡製糸場と絹産業遺産群
  - ・富士山
  - ・飛鳥・藤原の宮都とその関連遺産群
  - ・長崎の教会群とキリスト教関連遺産群
- の4件です。

その他、国立西洋美術館本館があります。フランスの建築家ル・コルビュジェが全世界で作った建築作品をフランス政府とその他の建築作品が所在する各国共同で推薦しようという動きがあり、2005年あたりからフランス政府から文化庁に対して、ル・コルビュジェの設計になる国立西洋美術館について、共同推薦するよう働きかけがありました。文化庁としては、いったんお断りしたのですが、再度非常に強い要請があり、一緒にやっということになりました。まず、日本の指定文化財として位置づける必要があり、実は一昨日に文化審議会で重要文化財としての指定についての答申をいただいたところでありました。そのことによつて日本国内の事務手続きはかなり進み、来年2月1日までにフランス政府と7カ国で計23件のル・コルビュジェの建築作品を一括して登録推薦するという運びになってい

ます。自然遺産については暫定リストとして小笠原諸島があがっています。

### 世界遺産の保存管理

白川村の世界遺産も含めてでありませんが、単に世界遺産に登録してよかつたというのではなく、きちっと保存管理をしていく必要があります。一つは世界遺産委員会への定期報告が必要であり、各締約国が6年ごとに定期的に報告の義務があるということになっていきます。保存管理計画は推薦書を出す時に個別の資産について策定が必要ですが、多くの構成要素を持つ場合には包括的な保存管理計画を策定することが必要で、実際にどのようなかたちで保存管理をしていくのかということについて、近年かなり詳細に記述するよう求められてきています。市町村が中心となって、国、都道府県との連携の下に質の高い保存管理計画を策定し、実行する必要があります。きちっとした形で保存管理をしていき、その中でまちづくりといかに調和、調整していくかということがますます大事になるかと思えます。

### 世界遺産一覧表に見る課題

現在、世界遺産委員会やユネスコ

で言われている大きな課題の一つは遺産の種別に不均衡があるということです。記念工作物が多く、世界の多様な文化を反映していないという課題です。それからやや似たことでありますが、文化遺産と自然遺産に不均衡が見られるということ、さらに皆さん、感じておられると思いますが、地域間の数的不均衡の問題があります。登録資産の大部分がヨーロッパのものでその他は非常に少ない、その中でもアフリカが特に少ないということがあります。

また一方で、世界無形文化遺産の登録という作業も始まっており、無形の文化財であるお祭や舞踊などについて世界共通の遺産として捉えていく必要があるとすることで、条約等を整備しているところです。

### 問題解決のための世界戦略

現在、世界遺産委員会はグローバルストラテジー（世界戦略）を掲げています。その中で、今後考慮すべき遺産、積極的に登録すべき遺産として「産業遺産」、「20世紀の建築」、「文化的景観」を挙げています。日本は文化的景観という名前を冠した資産の登録を、いくつか進めています。20世紀の建築としては、先ほどの「西洋美術館本館」、産業遺産と

しては「富岡製糸場」やその他の様々な近代産業遺産があります。こういったものをどのように世界遺産登録にもっていくかも大きな目標になります。

なお、世界遺産委員会では審査物件の制限として、「一締約国の推薦の上限、年2件」、「全体の審査件数の上限、年45件」、「世界遺産を持たない国からの推薦を優先」というようなことが語られていると聞いています。ただこれは必ずしも固定的なものではないようです。

今後の世界遺産登録はそう簡単ではありません。世界遺産を持たない国、少ない国、たとえばアフリカ諸国等なるべく優先的に登録していきたいという動きもあります。

### 我が国の

### 世界文化遺産をめぐる課題

そういう観点も含め、世界文化遺産をめぐる課題をまとめてみたのですが、まず一つ目に「総合的な保存管理計画の立案と実行」というのが非常に重要になってきます。ユネスコの世界遺産委員会は、今まで以上に価値をどのように維持していくのかということに関して厳しいチェックを入れようとしているのが見えてきました。二つ目は、例えば白川村に象徴的に現れているのかもしれない

せんが、「世界遺産保護と観光、まちづくりとの調整」の課題です。住民や遺産所有者の大きな負担をどのように解消、軽減するかということ、それから観光客の増大に対し、遺産の価値を保ちつつ、いかに観光振興を図っていくか、また、周辺の開発の進行についてどのように防衛し、適切に組み入れていくかということにも知恵も汗も必要ではないかと思っております。そして課題の三つ目は、「世界遺産登録の暫定リストの充実」で、先ほど申しあげたことです。

今、文化庁では文化審議会文化財分科会（国宝や重要文化財、史跡・名勝・天然記念物、伝統的建造物群保存地区等の指定、選定等の審査をする機関）の中に世界遺産特別委員会というものを設けています。さらに今年になりまして都道府県からの提案を詳細に審査するために、その特別委員会の中に4つのワーキンググループを作って、すでに動いているところです。こうして暫定リストの充実を図り、登録を推進していくわけですが、こうした努力の中で、日本における文化遺産の質と量を充実していきたいという希望があります。文化財を守る立場とまちづくり・観光等の立場、そしてこれらに関わる方々の幸せをいかに調整していく

かが、たいへん大事なことであり、合掌財団の今後の活動にますます期待しています。

## 記念講演

式典終了後、記念講演としましてタレントの大桃美代子さんにご講演をいただきました。大桃さんは日頃のタレント活動の傍ら地域のまちづくり活動に積極的に参加されておりまして、特にご自身の出身地であります中越地方の震災をきっかけに魚沼地方の復興支援ができないかというところで雑穀を使ったまちおこし活動に取り組まれています。そういった活動の中で触れ合った様々な地方でのまちおこしの事例を交えて、「外部から見た世界遺産合掌集落」と題してご講演いただきました。ここでは講演の中の他地域のまちおこし事例についてのお話をご紹介します。

### 外部から見た 世界遺産合掌集落

大桃美代子さん

こういうこと（雑穀を使ったまちおこし活動のこと）をやって東京と新潟を行ったりきたりしているうち

に、地方と都会の違いと、都会に住んでいるから見える地方の良さみたいなものがわかってきて、これを何とかみんなに伝えたいなと、食の提案だけでなく、お金を使わなくて豊に暮らせる暮らし方があるのではないかと思い始めるようになりました。私は今都会と地方を繋ぐ「ジョイン大使」というものに任命されまして、都会の良さ田舎の良さを繋ぎ、田舎を楽しんで、いろんなところが良いところだよというのを普及する活動をしています。私が今回この白川村に呼ばれましたのもこういった活動を通してまちづくり等に助言したりしている話ということでした。

しかし、私からしてみると白川村は非常にうらやましいです。世界遺産になっていて何もなくても人も来るし、困っていることなんて無いのではと思っていたのですが、お話を聞いておりましたら保存するのが大変、そこに住む人々の意思統一も大変であるということで、外からは見えないような苦労がたくさんあるんだなあと思いました。

私はこういう仕事をしながらいろいろ全国をまわるんですけども、全国でも世界遺産まではいかないけれどもいろんなものを観光資源として



大桃美代子さん

がんばっているという地域がありましてご紹介させていただいて、少しでも白川郷の皆さんのお役に立てたらということでお話させていただきました。

### 食でがんばる地域

四国の香川県は讃岐うどんで有名などころなのですが、その讃岐うどん食べたさに大阪や京都や奈良などの近郊の方々がわざわざ車で出かけて500円ぐらいのうどんを食べる。行くまでに何千円もかけて500円のもの食べるという方々が多くなっているところですね。お店の暖簾をくぐって玄関口に行きますと、うどんが玉で置いてあって、鍋

が置いてあって、ねぎとか薬味が置いてあって、それをセルフでやるんですけど、最後に温泉卵とかのせていくらすという、その方式が人気を呼んでいるんです。至れり尽くせりという形ではなく、「これだけちょっと自分でやってください。」という、来た人たちにちょっと労力を与えて、体験させるという食のつくりかたが人気を得ているという面白い場所でした。

### 体験の効果

この香川県のうどんの中で秀逸だったのが、ある店で突然はさみを渡されるんですよ。「これは何ですか、うどんでも切るんですかねえ。」なんて言っていましたら、「うどんは切らなくてもいいから、すぐその畑に行ってねぎ切ってきて。」って言われるんです。表に行くと青いねぎが生えています。自分が食べた自分だけ切って、まな板で自分で刻んで、うどんにのせるという究極のセルフの形なんです。食の安全安心といいますが、まずそこにあるものがすぐに採れて、自分で収穫して自分で調理して食べるという体験が入ると、それがおもしろいになって、皆さんそれを持ち帰って口コミが始まるんですよ。本当に小さなお店

なんです、食としてがんばっているお店でした。

### 香川の人々の人間性

このうどんなんですけど最近「UDON」という映画になりました。

この映画のシナリオライターの人  
が知り合いでどうしてうどんだった  
のか聞きましたら、「とにかく香川  
で撮影したかった。香川っていう場  
所がいいんだよね。」って言うん  
です。何で香川がいいのか聞いたら、  
「香川は人がすごく優しくて撮影し  
やすい場所だ。」ということ、香  
川ではお遍路さんでみなさん八十  
ヶ所巡りをするんですが、「ご接待」  
という風習があつて、来た方たちを  
お茶やおもちやご飯をだしたり家  
あげて休んでいってもらったりい  
うことが普段から行われている場  
所なんです。宗教感というのもある  
かと思うのですが人に対して心を  
開いて接待するというのが最初から  
できているところなので、口ケ隊  
が行ったときに非常に優しくて200  
人集まらなければいけないという  
ときに協力してくれるそうなんです。  
やさしさが良くて香川で撮りたか  
つたから「うどん」になったんだ

うことでした。人が良いから、そ  
で映画ができてヒットするという良  
い循環が生まれていると思ってい

### 環境をブランド化した地域

兵庫県の豊岡市というところでは  
「コウノトリが来る町」として環境  
保全に取り組んでいる事が有名にな  
つて、観光客が訪れるようになって  
います。豊岡市長にお話をお聞きし  
ましたら、自然環境に気を使ってい  
るといふのをアピールしていきたい  
ということ、約13年前に無農薬有  
機農法に切り替えようということ  
なされたそうです。それをするこ  
とで水がきれいになって、田んぼに  
ジョウウやタニシや虫などのコウノ  
トリの餌となるような生物が田んぼ  
に生まれただけです。それでコウノ  
トリを放して、去年は自然孵化が行  
われてニュースで話題になっていた  
のですが、コウノトリが育つよう  
なきれいな町ですよということ、ブ  
ランド価値をあげて、お米が、通  
常農協だと一俵(60kg)1万2千  
円ぐらいですが、豊岡ではコウノ  
トリ米と云うだけで一俵が10万  
円するんだそうです。環境に気  
を使つてますよということによつ  
て、これだけのブ

ランド価値をあげたのが豊岡とい  
うことです。今農業をやられる方  
々で目指せ豊岡というところが非  
常に多くあつていろいろな試みが  
行われています。お米だけでなく  
他の農作物も高いそうです、有機  
農法で作っているというのもある  
のですが、大豆は市場価格の3倍  
でも完売するそうです。「これだ  
け環境に気を使つた」という、  
言葉とイメージがこれからはいろ  
んな商品価値を生むということ  
を目的にしました。



当日は平高校郷土芸能部に五箇山民謡をご披露いただきました

### 大桃さんのお話を聞いて

ここでは大桃さんのお話の一部  
しか掲載することができません  
ですが、この他にも新潟の山古  
志村の震災後のまちおこしの様  
子や大桃さんの作られている「桃  
米」の商品化に関わる苦労話  
などを交えて大変興味深いお話  
をいただきました。中でも地場産  
品開発のお話の中で「加工品」  
の開発がキーワードになるのは  
ということ、「明宝ケチャップ」  
を事例にお話いただきました。明  
宝ケチャップは明宝レディースと  
呼ばれる地元の奥様方の集まり  
で作られる手作りのケチャップ  
で、インターネットの売り上げラ  
ンキングで毎回上位というほどの  
売れ筋商品ということで、その奥  
様達は毎年その売り上げで海外  
旅行に行っているということ  
でした。とにかくこれからは白  
川郷でも女性の発想によるもの  
づくりが重要になってくるのでは  
ないかというお話が聞かれました。  
とにかく楽しくものづくりがで  
きるということが物事を長続き  
させる秘訣であろうとお話を  
聞いて感じました。



2007年8月10日まん中の三枚の水田を今年復旧 八サ架けの風景



新しいトラクターも大活躍



去年2006年7月20日まん中の三枚の農地は畑でした



岐阜大学の学生さんにお手伝い頂きました

水田復旧事業4年目の今年は昨年まで畑としていた3筆320㎡に水を確保し水田に戻し復旧水田は計13筆4330㎡となりました。これで荻町内の休耕地の五分の一を復旧することができました。今年加わった3筆の水田は名古屋インターナショナルスクールの皆さんにご協力をいただきました。稲苗に触ること自体初めての子供達ばかりで小雨の振る中、裸足で水田の感触を楽しみながら田植えの体験をしていただきました。

秋の収穫は稲を八サ架け(天日干し)とし、「おいしいお米作り」にも挑戦しました。八サ掛けの材料は荻町の鈴口泰彦さんにご提供いただきました。作業には岐阜大学の学生さんにもお手伝いいただき大変助かりました。

今年のサツマイモ畑は周りの休耕地がすべて水田に戻ったため、水田に囲まれ、肩身が狭そうに育ちました。展望台から見ると中央にポツンと残ってしまったこの場所ですが、今年も白川小学校の皆さんが収穫に来てくれました。来年も子どもたちに畑を囲む水田の風景が残せるよう、がんばりたいと思います。



名古屋インターナショナルスクールの子どもたちによる田植え



今年も白川小学校の皆さんにサツマイモの収穫をして頂きました



今年は1日だけ観光客の方々にも稲刈り体験をして頂きました

水田復旧事業

この景観を

未来の子どもたちへ

!!

# せせらぎ公園小呂駐車場 平成十九年度の入り込み

平成十九年度のせせらぎ公園小呂駐車場入り込みは普通車が八万一千台、バスが一万三千台です。平成十八年度と対比すると普通車が百二十三%、約一万五千台増加、バスが九十七%、約三百台減となります。普通車はこれまでの最高が平成十四年度の七万八百台でしたので、一気に一万台も記録を更新しました。バスが平成十六年度以降、一万三千台前後で推移しているのに対し、普通車の伸びは注目に値します。

紅葉シーズンや盆前後といった特定の期間だけではなく、一年を通して底上げされたように増えています。なぜ普通車は増加しているのでしょうか。今年度、特にイベントがあったわけではありませんが、交通状況に大きな変化があったわけでもありません。ただ、白川郷までのアクセスが良くなったことが、より多くの人に浸透してきたことは確かでしょう。

テレビで紹介される白川郷では、大抵の場合、旅人は路線バスで入村しています。このイメージの通り、これまで白川郷といえは、あまりに遠く、道は険しく、交通機関を乗り継いだり、バスツアーに参加しなければ到底たどり着けない、と思われていたのではないのでしょうか。

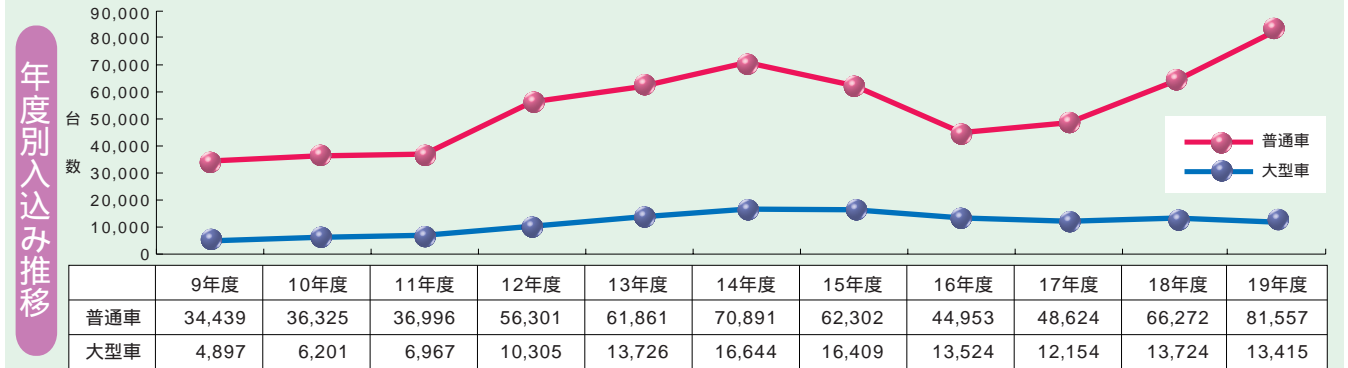
そのような先入観も、ここ数年道が良くなるに従い、変化してきたようで、マイカーを運転し来村する観光客が、一気に増えていったのかもしれない。さて、この夏東海北陸道が全線開通となり、高山からは四十分もあれば白川郷に入れます。おそらく白川郷を訪れる観光客も、現在の傾向に拍車をかける形で急増すると思われます。

平成十九年度も荻町世界遺産地区交通対策の実施が四月から十一月までの第三金、土曜日に行われました。集落内旧国道の一定時間自動車乗入規制、普通車のせせらぎ・寺尾臨時駐車場誘導及び集落までのシャトルバスによる送迎といった新交通システムの運用に加えて九月十一月には駐車場の事前予約実験も行われました。平成二十年度以降も試行・改良を重ねながら交通対策を推し進めていく予定です。世界遺産地区の景観保存の充実と、よりよい観光地づくりとが両立して発展できるような交通対策を目指したいと思えます。

平成9～19年度 せせらぎ公園小呂駐車場月別利用実績

普通車											大型車																		
月	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	前年対比	月別比	%	月	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	前年対比	月別比	%
4月	1,144	2,157	1,567	2,018	4,266	4,347	5,271	3,264	2,937	2,991	6,524	3,533	218.12		4月	80	363	350	534	776	946	1,269	1,133	937	982	1,061	79	108.04	
5月	3,144	4,867	4,729	7,174	9,068	6,589	7,968	5,706	6,093	6,525	8,511	1,986	130.44		5月	401	482	499	740	1,051	962	1,301	1,175	1,041	1,230	1,111	119	90.33	
6月	2,282	1,696	2,139	1,677	2,608	4,878	3,538	2,345	2,362	3,250	4,092	842	125.91		6月	492	546	622	831	994	1,254	1,376	1,035	917	888	925	37	104.17	
7月	3,150	3,621	3,074	3,459	4,504	8,445	3,954	3,843	3,377	4,111	6,074	1,963	147.75		7月	473	545	677	879	1,083	1,373	1,259	898	814	786	754	32	95.93	
8月	11,031	9,447	10,535	13,289	15,228	15,177	10,707	10,125	10,482	13,328	15,738	2,410	118.08		8月	516	577	703	776	988	989	1,014	864	793	797	827	30	103.76	
9月	3,538	2,788	2,152	5,540	7,242	9,249	5,395	4,387	5,396	6,978	9,420	2,442	135.00		9月	654	742	680	1,253	1,500	1,800	1,471	1,213	1,113	1,344	1,248	96	92.86	
10月	7,466	6,540	8,059	12,082	9,893	11,637	6,755	8,538	10,543	10,498	45	45	99.57		10月	1,685	1,515	1,753	2,646	3,253	3,638	3,020	2,527	2,383	2,564	2,395	169	93.41	
11月	2,684	4,212	3,496	9,087	6,418	5,081	8,494	4,651	5,973	8,760	9,003	243	102.77		11月	596	605	704	1,231	1,663	2,102	1,951	1,581	1,338	1,820	1,833	13	100.71	
12月		121	199	435	348	1,317	1,064	715	453	1,572	2,082	510	132.44		12月		35	147	177	289	684	592	504	371	484	460	24	95.04	
1月		260	369	218	323	586	1,073	770	812	2,538	2,912	374	114.74		1月		151	317	174	387	552	838	683	732	840	894	54	106.43	
2月		342	377	640	813	1,169	1,317	1,114	897	2,428	2,409	19	99.22		2月		471	270	733	1,171	1,394	1,479	1,329	1,137	1,319	1,240	79	94.01	
3月		274	300	682	1,150	3,181	1,884	1,278	1,304	3,248	4,294	1,046	132.20		3月		169	245	331	571	950	839	582	578	670	667	3	99.55	
合計	34,439	36,325	36,996	56,301	61,861	70,891	62,302	44,953	48,624	66,272	81,557	15,285	123.06		合計	4,897	6,201	6,967	10,305	13,726	16,644	16,409	13,524	12,154	13,724	13,415	309	97.75	

赤 年度別月間台数最高の値 青 年度別月間台数第2位の値 平成9年度は4月から11月まで料金徴収。平成20年3月31日現在





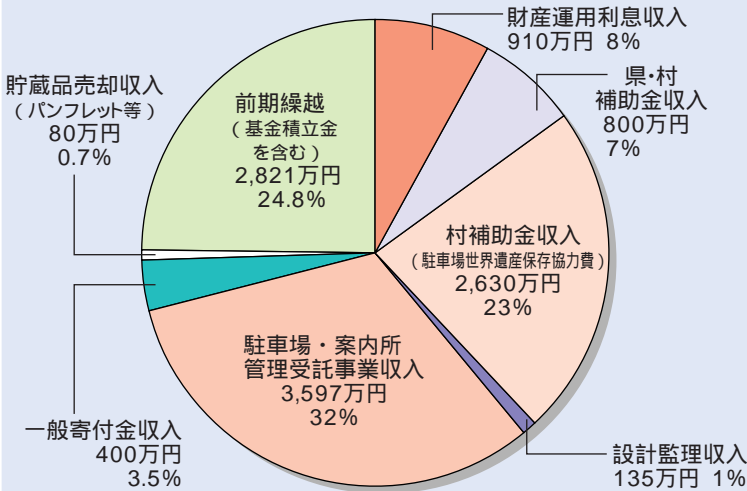
・・・財団法人世界遺産白川郷合掌造り保存財団・・・

平成19年度

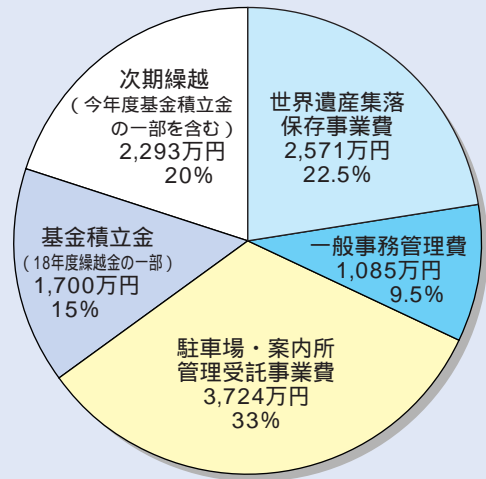
# 会計のあらまし

財団が、どのような収入を得て、どのように支出しているのか、平成19年度の会計状況をお伝えします。

**歳入 1億1,373万円**



**歳出 1億1,373万円**



## 平成19年度の主な事業

1. 修理事業		9,906,000円
差し茅	13棟	4,424,000円
伝統的建造物修理	2棟	280,000円
棟茅葺替	87棟	5,009,000円
トタン屋根葺替	2棟	193,000円
2. 修景事業		2,187,586円
修景協力費助成	10棟	1,331,000円
トタン屋根葺替	2棟	287,000円
ビニールシート指定色奨励事業	35枚	120,866円
一般建築物茅屋根補修	4棟	169,000円
オダレ助成	40枚	279,720円
3. 地域活性化事業		1,246,000円
自治保存会活動費助成		1,000,000円
自治保存会育成事業		246,000円
4. 調査普及事業		5,279,240円
新交通システムの普及事業		5,279,240円
6. 水田復旧事業		3,743,850円
耕作放棄地の復旧		3,743,850円
7. 合掌財団設立10周年記念事業		2,458,770円
財団10周年記念事業・記念誌発行		2,458,770円
合計		24,821,446円

## 財源内訳

県補助金	4,000,000円
村補助金	20,000,000円
基金運用利息	821,446円

財団が管理運営するせせらぎ公園小呂駐車場で観光客の皆様から頂く料金は駐車場利用料(普通車300円・大型車2,000円)、世界遺産保存協力費(普通車200円・大型車1,000円)の二種類にわかれます。これらはすべて財団を通して一旦村に納められます。駐車場利用料はせせらぎ公園及び駐車場の維持管理費に当てられ、その一部が駐車場・案内所管理受託事業費として財団の歳入となります。世界遺産保存協力費は世界遺産地区の保存のために使われます。こちら一部が村から事業及び運営費補助金として財団に入ります。これは主要事業を遂行するための大切な収入源となっています。

平成19年度の駐車場収入は、来場者の増加により平成18年度を大きく上回り駐車場利用料約4,960万円、世界遺産保存協力費約2,970万円となりました。

財団が保有する基金は、約6億8,260万円、19年度は910万円の利息となりました。財団の貴重な自主財源として保存事業を中心に活用しています。皆様から頂いた寄付金が元になった基金です。今後も大切に管理運用していきたいと考えております。

## 財団が保持している基金の現在額 (平成20年3月)

基本財産	302,361,000円
運用財産	380,264,160円
合計	682,625,160円



### 募金ご協力者一覧 (敬称略)

#### 平成19年度

- 秋田県 石川計二
- 茨城県 黒田乃生
- 埼玉県 細谷恵子
- 東京都 真田 寛
- 神奈川県 坂本富男 / 北村秀雄 / 小野幸子 / 植木カツミ
- 愛知県 森 顕敏 / 福井きよみ / 中日本航空株式会社 / 佐藤喜久雄
- 岐阜県 早川寛雄 / 竹村秀春 / 荒家福廣 / 早川美和子 / 株式会社セントラルファイナンス岐阜支店 / 有限会社高山観光写真サービス
- 三重県 小田信雄 / 紺谷圭子
- 滋賀県 岡野時男
- 和歌山県 石田真紀
- 兵庫県 西本照也
- 香川県 柴田 聡
- 福岡県 上野至朗 / 野中利郎

#### 竹筒募金

白川村役場 / 和田家 / 長瀬家 / 神田家 / 明善寺 / 民宿 十右エ門 / 民宿 きどや / 民宿 ふるさと / 民宿 久松 / 民宿 利兵衛 / 民宿 幸エ門 / 民宿 与四郎 / 民宿 源作 / 民宿 大田屋 / 民宿 文六 / 民宿 よきち / 民宿 伊三郎 / 民宿 のだにや / 民宿 孫右エ門 / 民宿 志みづ / 民宿 かんじゃ / トヨタ白川郷自然学校 / 民宿 よそべえ / 民宿 わだや / 旅館 城山館 / 民宿 一茶 / 土産 おけさ / 土産 山楽堂 / 土産 山香 / 土産 しゃくなげ / 土産 山里 / 土産 合掌苑 / 土産 佐藤民芸品店 / 土産 今藤商店 / 土産 白楽 / 土産 山峡の家 / 食事 基太の庄 / 文化喫茶郷愁 / 食事 合掌庵 / 合掌造り民家園 / 土産 古太神 / 食事 合掌森崎 / 焰仁美術館 / 土産 元気な野菜館 / 食事 喫茶狩人 / 土産 恵びすや / 土産 おいしんぼ / 食事 喫茶今昔 / 白川郷の湯 / 食事 いろり / 民宿 やまもと / 食事 たなか屋 / 土産 ぜん助 / 食事 手打ちそば処 乃むら / 喫茶 さとう / 食事 ごばんしょ / 民宿 松兵衛 / 鳩谷郵便局 / 土産 道の駅白川郷 / 喫茶 千晴 / 食事 白水園 / 食事 飛騨路 / 食事 ます園文助 / 食事 城山天守閣 / 食事 忠兵衛 / 食事 しらおぎ / 喫茶 コーヒー鄙 / あらい食堂 / 食事 味処ゆきんこ / 団子 ちとせ / 食事 盛善 / どぶろく祭りの館 / 白川郷観光協会 / 総合案内であいの館 / いっぱく ちな / 飛騨振興局

## 世界遺産白川郷合掌集落保存基金にご理解とご協力を

合掌財団では世界遺産集落の景観保護を行うため、合掌造り家屋の修理に対する助成や合掌造りを取り巻く全ての建物が農村風景に影響を与えないような修景に対する助成等を中心に、集落に暮らす住民の生活により密着した事業展開を心がけております。

それらの経費を賄うには、合掌財団のわずかな基本財産の運用益だけでははるかに及ばないのが現状です。現在はそれを補う窮余の策として岐阜

県の助成を得て、白川村が緊縮財政の中から捻出しています。今後の社会情勢の変化に伴い、合掌財団に対して要請される事業がますます多様化していくものと予想されます。合掌財団がこのような課題にできるだけすみやかに、的確に対処していくためには基本財産をより充実させ、運用できる果実をもっともっと増やさなくてはなりません。どうか合掌財団の趣旨にご賛同くださり、皆様の暖かいご支援、ご協力をお願いします。

#### 振替による場合

基金に対する  
ご寄付お送り先  
及び資料請求先

- 郵便振替口座 00810 - 6 - 51954
- 飛騨農業協同組合白川支店(普) 9203800

#### 現金書留による場合及び資料請求先

〒501-5627 岐阜県大野郡白川村荻町2495 3  
(財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団  
TEL(05769)6 3111 FAX(05769)6 3113  
インターネットでも受け付けています。  
<http://shirakawa-go.org/kikin.html>

### 編集後記

10年というのは感覚的にはついこのあいだのように感じますが実はとても長い時間だったのだと最近になって感じるころがあります。それは10年前に私が白川村に来たときには小学生だった子たちが社会人になって白川村に戻ってきた姿を見たときです。「ネー、もうそんななの」という浦島太郎になったような驚きを感じております。白川村の子は中学校を卒業すると白川村を離れて顔を見ることがなくなるので特にそういう感覚になるのかも知れません。

10年前というとちょうど飛騨トンネルの本坑採掘が開始された年です。飛騨市と白川村を繋ぐこのトンネルの貫通により本坑採掘開始から10年目の今年、東海北陸自動車道が全線開通します。この開通によって高山まで車で1時間30分かつていた道のりも開通後は40分ほどで行くことができるため白川村の生活環境はまた変わってくるかと思えます。特に白川村から高山の高校へ通学が可能となることは「白川村に高校生が定住する」という意味で村の雰囲気も大分変わるのではないのでしょうか。特に村民運動会では年齢別リレーなどは高校生に参加していただくことで物凄いデットヒートが繰り広げられることでしょう。これから白川村にとって新たな転換期を迎えるわけですが白川村で過ごす高校生活が楽しめるような村になるとうれしいですね。